



The Festival of India インド祭



South Indian Classical Music, Carnatic sent by ICCR

インド政府 ICCR 派遣

Shri Delhi R. Sridhar 南インド古典音楽公演

南インド古典音楽アンサンブル。
北インド音楽とはスタイルが異なる。
西洋から取り入れたヴァイオリンを使い、インド式奏法で演奏する。

論理的で哲学的な南インド音楽は
インド人にとって娯楽ではなく、
ヒンドゥーの神々を讃える崇高な
芸術と考えられている。即興演奏
の掛け合いも演奏家たちの腕の見
せ所。

南インドは IT の集積地（マイソ
ール、ハイデラバード、バンガロ
ールなど）であり、「感情より論
理」のインド人的思考が音楽にも
反映されている。

南インド古典音楽ヴィナー演奏家
的場 裕子



出演

DELHI R. SRIDHAR
ヴァイオリン

V. SHANKAR RAMAN
ムリダンガム（両面太鼓）

N. HARI NARAYANAN
ガタム（素焼きの壺）

BEJJANKI V. RAVI KIRAN
モールシン（口琴）

2015年5月22日（金）

会場：インド大使館 ヴィヴェーカーナンダ文化センターホール 東京都千代田区九段南2-2-11
VCC Hall, Embassy of India 2-2-11 Kudan Minami, Chiyoda-ku, Tokyo

開場：18:30 開演：19:00 at 19:00 hrs (open 18:30)

入場料：2,000円（前売り）/2,500円（当日）（全席自由） 2,500yen/2,000yen (advance) (free seating)

※学生は前売り、当日とも500円割引します。 500yen discount for Students

大型のバッグ、カメラ、録画機能のついた機械、飲食物の持ち込みはご遠慮下さい。
Large bags, cameras, recording equipment and food & drinks are NOT allowed inside the Auditorium.

13歳未満のお子様のご来場はご遠慮ください。
Children below 13 years of age are not allowed.

■予約・問合せ：NPO法人日印交流を盛り上げる会(025-752-2396、mail:ticket@mithila-museum.com))

■Inquire & Ticket reservation to Society to Promote Indo-Japan Cultural Relations
(025-752-2396, mail:ticket@mithila-museum.com)

主催：NPO法人日印交流を盛り上げる会 協力：インド大使館、ICCR、光ミュージアム 後援：(公財)日印協会
Organized by Society to Promote Indo-Japan Cultural Relations
Supported by Embassy of India, Tokyo, ICCR, HIKARU MUSEUM, The Japan-India Association

The Festival of India インド祭について

インド政府は「日本に於けるインド祭 2014-15」を昨年 10 月より開催しています。4つの舞踊団による日本全国公演（20 都市町、21 公演）を皮切りに開催され、10 月 27 日にシュリパド・ヤッソ・ナイク文化・観光大臣と太田昭宏国土交通大臣によって正式にインド祭の開会が宣言されました。仏教写本に関するシンポジウム、福島・広島・熊本での仏僧による平和祈念、文学、映画、食に関するフェスティバル、様々な催事が開催、発表されました。

インド祭の主要催事のひとつ、特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏教美術の源流」を、現在、東京国立博物館・表慶館で開催しています。[5月17日まで。月曜と5/7（木）休館。5/4（月・祝）は開館]

アジア初の総合博物館として 1814 年に創立されたコルカタ（旧カルカッタ）・インド博物館から、インド仏教美術の至宝約 90 点が公開されています。インド祭開会式で、ナイク氏は「1988 年の『インド祭』以来のインド政府による大型文化交流」と言われました。その目玉が本展覧会で、インド仏教美術のはじまりから 1000 年を超える仏教美術の変遷が俯瞰できる展覧会です。このような本格的なインド仏教美術の展示は日印の交流史上はじめてのことです。

仏教文化に多大な影響を受けた日本人、また日本にある仏像に心を癒されてきた日本人にとって必見の展覧会です。戦後、子どもたちの要望でインド政府が日本に送られたインディアという象に日本中が沸いたように、上野の森にインドからやってきた仏像を観覧に多くの方々より来ていただけたらと思っています。

NPO 日印交流を盛り上げる会 理事長
長谷川 時夫



日本にはじめて来たインド人 菩提僊那と東大寺での菩提僊那継承事業

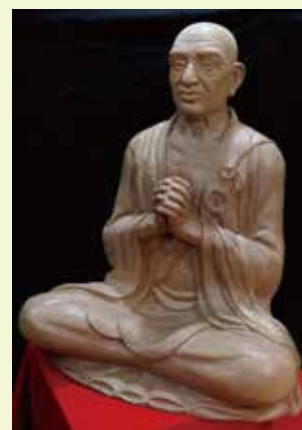
菩提僊那は遣唐使の要請で仏教の教えを日本に伝えるため、一度は暴雨に遭い引き返しましたが、天平 8 年（736 年）5 月 18 日に二度目の航海を経て太宰府に到着しました。菩提僊那は当時、東大寺と並び大寺院であった大安寺においてサンスクリット語をはじめ、仏教の教えを日本僧に伝え、天平勝宝 3 年（751 年）には僧正という非常に高い位に就きました。

聖武天皇の詔により天平 15 年（745 年）から現在地での建立が始まった東大寺盧舎那仏の開眼法会は、天平勝宝 4 年（752 年）4 月 9 日に執り行われました。菩提僊那は聖武上皇の勅書を受け、上皇の代わりに開眼導師をつとめました。開眼の筆には縹（はなだ）色の縷（る）（全長 198 m）が結ばれ、会場に集う人々がこの縷を手を持ち、開眼の瞬間に結縁しました。1 万人を数える僧侶も参加したと伝えられます。

大仏を開眼した菩提僊那は、東大寺では大仏建立発願者である聖武天皇、大仏建立の歎進をした行基、東大寺初代別当の良弁と共に東大寺「四聖」と呼ばれ称えられています。

大仏を含め東大寺の建立には当時の日本の人口の半分ほどの人が延べで関わったと言われています。盛大な開眼の催事は現代と比較するならば、オリンピックの数十倍とも言えるのではないのでしょうか。その導師をつとめたインド僧の生涯は、私たち現代人にとって大きな感動を与えます。

菩提僊那は記録史上、日本に初めて来たインド人であり、開眼導師をつとめた功績は大きなものです。2012 年、インド政府は日印国交樹立 60 周年の記念催事として、菩提僊那を 1276 年の時を経て継承しました。その後も毎年、インド大使館や東大寺にて開催して参りました。4 年目となる今年も、菩提僊那が太宰府に到着した 5 月 18 日に開催いたします。国際化の時代、継承事業を続ける中で、インド人の顔をした菩提僊那像をという声があがり、インド大使館の協力の元、インドで制作された菩提僊那像が今年の 4 月、日本に到着しました。



インド大使館の協力で制作されたインド人の顔をした菩提僊那像も登場

もっと知ろう、～日本に初めて来たインド人、婆羅門僧菩提僊那を継承する～ インド政府 ICCR 派遣 南インド古典音楽奉納公演

平成 27 年 5 月 18 日（月）

14:30-15:00 オープニングセレモニー（点灯式）

15:00-16:00 Shri R. Sridhar 南インド古典音楽奉納公演

場所：東大寺中門

入場無料

共催：インド政府 ICCR、インド大使館、東大寺、NPO 日印交流を盛り上げる会

協力：大安寺、霊山寺 後援：奈良県、（公財）日印協会

問い合わせ：インド大使館 VCC Tel.03-3262-2882、大阪・神戸インド総領事館 Tel.06-6261-7299

NPO 日印交流を盛り上げる会 Tel.025-752-2396

